

たのしいな ようちえん！ ⑧

秋の深まりが感じられる候となり、園では園外保育として群馬の森にどんぐり拾いに行ってきました。年少児は『これは丸い形だね。』『赤ちゃんどんぐりがあった！』と発見を喜んだり、友だちと形を見比べたりしていました。年中児は、保育者が事前に群馬の森にあるどんぐりの種類を子どもたちに伝えていたので、子ども同士で『クヌギはどこかな？』『次

はスダジイを見つけよう。』

『この形は何のどんぐりかわかる？』と会話しながら

どんぐりを拾っていました。年長児は事前に伝えることに加え、日々活用している図鑑を手にし、どんぐりだけではなく木々の根元や切り株に生えているキノコの種類も調べていました。また、保育者が様々などんぐりの写真と名前が記載されたものを使用したり、木々に設置された看板を用いたりしながら

子どもたちの興味関心をより高めていました。



園では各学年の発達や子どもの姿に合わせて行事の計画を立てています。園外保育の持ち物の準備も計画の一部として考えています。

どんぐり拾い前日の降園バスでの出来事です。翌日のどんぐり拾いについての話が盛り上がりました。子どもたちは『ビニール袋持ってきてね、って先生が言ってたよ。』『名前を書くんだよ！』とクラスで保育者から聞いたことを伝え合っていました。しかし、当日の朝ある子が『ビニールを自分で用意しようと思ったのに、ママが用意しちゃった。』と話していました。保護者の方は忘れてしまって不便をかけないようにという親心から用意してくれたことと思いますが、子どもと一緒に用意することでより期待感を高めることができたことでしょう。

また、子どもたちが身辺自立できるように園では満3歳児クラスの時から指導、援助をしています。ご家庭ではいかがでしょうか？朝、時間が無いからといって全てを用意してあげていませんか？小さなことでも何か一つを自分で行い、やり遂げるということは子どもたちの小さな自信に繋がります。例えば給食セットをカバンに入れる等、小さな積み重ねがいろいろなことに躊躇せず挑戦することにも繋がるのです。そして、その子どもたちの挑戦は子どもたち自身の成長を促すことができます。



また、“自分のことが自分でできる”ということは子どもたちの不安を取り除き安心感をもつことにもなります。満3歳児や年少児は入園直後、身の回りのことが自分でできないことで不安になってしまう姿がよく見られます。何がどこに入っているのかが分からないとより不安になってしまうのです。これも一緒に準備することで解消されます。

ぜひ、ご家庭でも身の回りのことを一緒に行うことを意識してみてください。子どもたちがより安心感をもって園生活を楽しむことができますと思います。